

〈目的〉子供の行事の一つである「七五三」は、子供の無事な成長を願う親たちの思いが反映されていると思われる。ここでは「七五三」の服装とその意識を調査し、家族間の関わりを検討したい。

〈方法〉定位点観測調査とアンケート調査を実施した。前者においては平成2年11月11日明治神宮にて、七五三で本殿に参拝した191家族の服装調査を行った。区分は「和装」「洋装」「その他」とする。後者は平成2年10月に都内私立幼稚園2ヵ所で、園児を持つ母親211名に質問紙票によるアンケート調査を行った。有効回答数196名、有効回答率92.9%であった。調査内容は、七五三時に①着せたもの、②入手方法、③④の理由、④現代の一般的傾向についてである。

〈結果〉定位点観測調査においては、七五三本人の和装率は男子55%、女子75%であった。母親の和装率は28%であるが、女子を持つ母親の方がやや和装化が高い。祖母になると、母親よりさらに和装化傾向である。父親の場合は95%が洋装で、その他普段着も4.8%いた。家族の中で七五三本人女子の和装は、同じ七五三の男兄弟と母親の和装化に影響を与えるが、父親は家族の服装にあまり左右されない。またアンケート調査より、七五三時の衣服の購入者は祖父母が圧倒的に多く、七五三を子供の一つの節目の行事として、家族全体が比重をおいていることが伺えた。現代の傾向に関しては、たしかに華美的ではあるけれども、そこに親が子を思う心が感じられ、また非常に高額なものには賛成的ではないが、我が子には家計の中のできる範囲内で十分なものを着せたいという結果であった。